



6/10 クライミング「リード」日本代表に選出

スポーツクライミングの「リード」種目女子日本代表に初選出された松田喜々選手が、市長を表敬しました。

クライミングは3種目あり、その中でもリードは命綱を付け、制限時間内に登った高さを競う競技です。

小さい頃から木登りが好きだったという松田選手は、中学3年生の時にクライミングに出会い、そこからジムに通い、本格的に競技を始めました。コーチの池原さんは松田選手について「高いモチベーションで日々の練習に懸命に励み、努力を怠らない所が強みだ」と話し、松田選手は「代表に決まったが、これまでとやることは変わらない。経験を積んでW杯出場を目指し、全力で戦っていく」と日本代表としての意気込みを語りました。



6/10 ミャンマーから来た介護実習生が浦添へ

新型コロナウイルス感染対策に伴う入国制限が緩和され、市内介護施設の担当者とミャンマーから来た5人の介護技能実習生が、受け入れ開始の報告で市長応接室を訪れました。

日本の看護に関する知識と技能を伝え、外国人と地域住民との交流を目的とした取り組みとなり、4月によりやく来日した実習生たちは日本語研修を経て市内で働いています。実習生の一人が長引く内戦で砲弾が飛び交う中、自宅から現地の空港まで行ったという話をすると、市長は苦勞を労いながら「頑張っている仕事をして、沖縄が皆さんの第2のふるさとになることを願っています」と励ましの言葉をかけました。



5/24 学生と企業のより良い出会いのために要請

市内の新規高卒者の雇用促進や離職率の改善を図るため、那覇公共職業安定所の知念所長と浦添市の松本市長は浦添商工会議所へ学卒求人確保と求人票の早期提出を求める要請書を提出しました。

要請書を受け取った浦添商工会議所の浦崎専務理事は、コロナ禍により観光関連企業を中心として県内全体の求人数が減っていることに言及しつつも「人材があつての企業だと思っていますので、学生と企業とのミスマッチを無くしていくためにも求人票の早期提出を徹底していきたい」と話しました。



6/3・7 仲西中で SNS・ネットの使い方講座

eネット認定講師の嶺間恵誠氏による、スマホやネットの正しい使い方を学ぶ「e-ネット安心講座」が仲西中学校で行われました。コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となり、6月3日は1・2年生、6月7日は3年生に各教室で対面とZOOM配信が行われました。講座では、SNSやネットの利便性を伝えつつも、ゲーム依存や個人情報の流出など、小中学生で増加しているさまざまなトラブルを紹介しました。講座を受けた生徒からは、「SNSは便利だけど、使いすぎると依存で使用がやめられなくなり、生活に支障がでることを知った。人が不快になることは書かず、特定の人だけ見られるように設定してプライバシーを守りたい」とSNSの正しい使い方を学びました。



6/4 待ったなしの立ち合いに大歓声！

第4回わんぱく相撲沖縄全島大会がANAどすこいパーク浦添で開催されました。相撲を通して、礼節や、相手を思いやる心などを育む事を目的としたこの大会に、全県から小学1～6年生までの児童約50人がエントリーしました。

大会を主催した浦添青年会議所の名嘉亨哲理事長から「日ごろの練習の成果を十分に発揮してがんばってください」と激励された児童らは、力強い立ち合いや多彩な技で名勝負を繰り広げました。

この大会で優勝した4～6年生の男女6人は、男子は両国国技館で、女子はどすこいパーク浦添でこれから開催される全国大会に出場します。



5/20 神森中男子ハンド部にてだこ市民賞

第51号輝くてだこ市民賞の授賞式が市長応接室で行われました。今回受賞したのは神森中学校男子ハンドボール部で、3月に富山県で開催された、春の全国中学生ハンドボール選手権大会で見事全国制覇を成し遂げた功績が認められました。

市長から表彰状および記念品を受け取ったキャプテンの新垣瑛太郎さん(中3)は「全国大会は緊張感があつたが、コミュニケーションを大事にして、一つ一つの試合に臨んだ結果が優勝に繋がった。中体連も厳しい戦いになるが、さらにレベルアップした神森をみせたい」と今後の意気込みを語りました。

＼ 話題がいっぱい /

なかゆくい

市内各地で行われたイベントや、まちの話題をお届けします。ここで“なかゆくい”しませんか。(なかゆくい＝ひと休み)

市ホームページ「うらそえトピックス」にも市内のできごとを紹介しています。



5/14・22 日本復帰50年講座を開催

沖縄の復帰50年の節目に合わせて、「日本復帰50年講座」が開催され、10～70代の40人が対面とオンラインで受講しました。

第1弾は新聞イベントプロデューサーの大久保謙氏と琉球新報社の関戸塩氏が、1972～2022年の5月15日の新聞総合一面の見出しを見比べて当時の世相を読み解き、第2弾は沖縄大学教授の宮城能彦氏が生活の視点から復帰について説明しました。

受講者からは「新聞を見て懐かしい昔のことを思い出した。家族と復帰について語り合えた」「翻弄された沖縄の歴史を学び、自分の足元から歴史を見つめ直したい」との感想が寄せられました。